

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371001500		
法人名	(有)ネクストサブライ		
事業所名	グループホーム名古屋中川の家 1号館		
所在地	愛知県名古屋市中川区吉津四丁目1303番地		
自己評価作成日	令和2年9月5日	評価結果市町村受理日	令和3年1月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kajgokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;jiyosyoCd=2371001500-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kajgokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;jiyosyoCd=2371001500-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 愛知評価調査室		
所在地	愛知県名古屋市瑞穂区本願寺町2丁目74番地		
訪問調査日	令和2年9月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様一人ひとりの状況に応じた介護・自立支援を、職員・家族・医師等と話し合い、実行するようにしている。  
 毎月行う行事には、家族にお知らせし参加して頂いていたが今年度は、コロナ感染予防の為、家族の参加が出来ない為、写真や手紙などで、報告している。  
 今年度は地域の住民との交流も難しいため、地域の薬局さんには助言頂くなど協力をあおんでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所に3年勤務の後、今3月に管理者となったリーダーを中心に、新たな船出のテープを切っています。前任者が大切にしてきた「家族との信頼関係の継続」を基盤に、電話や写真、手紙を少なくとも月1回は届けることを励行し、家族の話を傾聴することに努めています。また、理念に沿って「1日1回は利用者の笑顔を引き出したい」と考え、介護計画を熟考し、レクリエーションの充実に力を注いでいます。利用者もこれまでの趣味(編み物、裁縫、読書)や家事(掃除、食器拭き、洗濯物干し)を続け、花の水やりや新聞購読など彩りある暮らし向きが実っています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内に理念を提示してあり、職員会議で唱和し、確認し実践に繋げている。	法人の理念「人格を尊重し常にその人の立場に立ち、明るく家庭的な雰囲気」に心掛ける」を事務所に掲示のうえ、職員会議で唱和しており、利用者の笑顔を引き出す手立てとしてレクリエーションの充実を図っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	正月には町内の神社に初詣にでかけ、地域の方々と交流を図った。 例年であれば、地域の高齢者の方々と一緒に食事をする「つくしの会」の給食サービスに参加したり、秋祭り・ふれあい祭りに参加している所であるが、今年度はコロナウイルス感染症の影響で、参加できず残念な思いを抱えている。	自治会に加盟、回覧板も廻ってきています。大正琴、手品のボランティアの来訪や、地域高齢者との食事会など、これまで積み重ねてきたご縁は全て中止となり、散歩の園児が「おばあちゃ〜ん」と手を振ってくれるのが一つのふれあいとして、嬉しい毎日です。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や行事への参加を地域に呼びかけているが、今年度は参加を見送らせていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に参加できていない方からも、FAXなどで伺った意見は、職員会議・カンファレンスにおいて話し合い、サービス向上に活かすよう心掛けている。	奇数月の隔月開催を重ねてきた運営推進会議は、2月・5月・7月・9月を外部者が集まらない方法としています。管理者が2ヶ月分の活動内容を書面化、薬局をはじめとするメンバーに郵送して意見を得られてはいますが、「早く集まったら」と願っています。	現在、個々の便りの発信はありますが、事業所通信がありません。コロナ明けには地域の皆さんにも見てもらえる活動報告があると、なお良いと思います(家族も行事などがより鮮明に把握できる)。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域支援センターには電話やFAX等で、相談し協力を得ている。 区役所を訪問した際には、担当者で面談し、利用者の状況など、報告し協力をあおいでいる。	現在、生活保護受給者を12名受け入れており、上限を設けていないため、今後も行政からの依頼には応える予定です。担当部署からも年1回は来訪面談があり、事業所も区分変更や助成金などで民生子ども課保護係りに月1回は出向いで連携を図っています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事務所に「身体拘束ゼロへの手引き」を置き、職員への啓発を行なっている。 身体拘束適正化検討会議を3ヶ月に1回行い、対策を話し合っている。 事業所内の研修で年2回学ぶ機会が作られている。	身体拘束未実施減算に係る事柄は順守できています。ユニットカンファレンスの機会に関係資料を読み上げて学習の場としたり、「こういうことではないようにしましょう」と管理者が投げかけることで気づきを促すなど、小さな努力を続けています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の指導は徹底されており、事業所内での研修で学ぶ機会が作られている。 職員同士でも、注意し合う事が出来るよう指導されている。 虐待の芽や不適切なケアが無いが自己チェックを行い防止に努めている。		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度利用者の後見人との交流は持っている。 内部研修を行い学ぶ機会を作っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に利用者、家族等に契約内容を理解・納得して頂けるよう説明をしている。またリスクについても説明書を用い説明し、理解・納得して頂けるよう図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設に対する苦情や要望などの窓口は施設だけでなく、本部にも設けられており、家族よりの意見・要望を聞き、運営に反映させている。 家族が来設された際には、意見や要望を聞くようにしている。	家族は少なくとも月1回は面会に訪れてくださっていましたが、現在は自粛してもらっています。 外出の為にリフト付きやパワーアシストの車輛に変えてくれた家族もいて有難い一方で、生活保護受給者の内4名は身寄りがないため、家族に代わって職員が気持ちの面でも支えています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議は本部の地区責任者同席で、毎月行われ、職員が意見を述べる機会を設けている。 議事録は回覧し、全職員に周知を図っている。	ベテラン職員は意見をあげていますが、新人の悩みに気づいてあげられなかった例が1件あったことから、新管理者は胸を痛めており、職員の発した言葉に耳を傾け、様子を観察したり、シフトを無理のない様にする事に十分留意しています。	職員の見守りとともに、個人面談の機会を定期で設けることを期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則の変更で給与・福利厚生等条件の整備がされている。職員は変更された内容をいつでも見る事が出来、今後の向上心に繋げる事が出来る。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内における研修は毎月、全職員に対し行われている。 外部研修については、2月以降は参加が難しくなっている。。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	講演会等への参加は難しくなっている為、電話などで、同業者と交流を図っている。		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者に対する傾聴に十分留意するようにしている。利用者様にカンファレンスに参加して頂き、意向を聞き、不安な事・困っている事が有れば解決の糸口を見つけて行く様努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等の要望については、可能な限り受け入れるよう努力しており、利用者の状況についても、詳細に家族に報告している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアプラン作成時だけでなく、本人の状況の変化に伴い、担当者会議で話し合い、家族に報告しプランの変更をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や食器拭き・洗濯物たたみ・裁縫等、利用者の能力に応じて、職員と一緒にしている。 見守りを行いながら、出来る利用者には自室の掃除や自分の洗濯物干しをして頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	今年度は面会に制限があり、自由に面会や外出ができない事もあるが、距離を置いての面会や、電話などで直接話して頂く機会を設けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	制限はあるものの、家族・知人の来訪時には屋外で、距離をとっていただくなどの対応をしながら、短時間でも、希望に応じ会話・交流もされている。	面会は、「玄関でガラス越しで会う」「外のテラスでベンチに座り話をする(2メートル以上離れて)」と工夫を重ね、また電話の機会を増やしており、コロナ禍であっても「家族に会いたい」気持ちに応えています。また、携帯電話を持つ人も3名います。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎月行う行事等に向け、利用者と一緒に考え、準備や作品作りをしている。 天気の良い日には、一緒に話をしながら、散歩に行ったり日光浴をしている。		

### 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所される利用者の受け入れ施設の確保や情報提供を行なっている。 家族の許可を得て面会に伺ったり、家族から退所者の状況について電話を頂いたりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者本人に意向を聞き、希望を取り入れる様にしている。 利用者の行動の変化等を観察し、状況を介護記録に記し、ケアプランに反映させている。	居室担当を決めて意向を集中的に抽出するとともに、話し好きな利用者は散歩やお風呂で吐露くださいます。掴んだことは「介護詳細」「申し送りノート」に残し、職員間で共有しています。アクション映画が好きとわかり、レンタルビデオを借りることにつながったこともあります。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族関係や生活歴・病歴等については、入居情報として記録し、日々の会話の中からもくみ取りケアプランに反映させている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の日々の出来事や言動等を介護記録に個別に記録し、職員間の情報の共有、ケアプランの見直しに活用している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の担当者会議で話し合い、本人の状況について、家族や協力医等と意見交換や指導を頂き、ケアプランを作成している。	「業務日誌」「申し送りノート」「詳細記録(利用者の想い)」「介護記録(短期目標チェック・バイタル・食事量・服薬チェック・排泄チェック・入浴)」と、日々の職員記録によるモニタリング並びにユニットカンファレンスを以て、「チームでつくる」に結ばれています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日々の出来事や言動等を介護記録に個別に記録し、職員間の情報の共有、ケアプランの見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問理美容など、他サービス事業所とも連携し、本人のニーズに合ったサービス提供をおこなっている。		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の高齢者の方々と一緒に食事をする「つくしの会」の給食サービスに1月まで参加していた。 2月以降は地域の行事にも参加が難しくなっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に訪問医、訪問歯科の受診を受けている。 協力歯科医に行き定期健診などを受けている。	特別な病のある1名は他医院も利用していますが、全員が協力医に変更しています(訪問診療1、往診1で月2回)。半数ずつ診るため、医師訪問は毎週ありますが、「医療従事者への質問機会を増やしてほしい」との職員意見から、看護師の勤務日をかぶらないようにしています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は週1回、利用者の健康管理をしている。 利用者に急変などが有った時は相談し、アドバイスを受けている。 訪問医・訪問歯科医から、介護として可能な支援の指導を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には職員が付き添い、情報提供をしている。 入院中は、定期的に病院を訪れ退院についての情報交換をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	カンファレンス等において、利用者の状況を協議し、必要に応じて医療機関や特養・老健との連携を図っている。	「看取りに関する指針」を通じて家族には契約時に説明をおこなっています。「最期まで此处で」と希望する家族が多く、事業所ではマニュアルを整備のうえ、来る日に向けた準備に余念がありません。また、職員の中には自主的に救命救急の講習に出向く人もいて、頼もしい限りです。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応マニュアルを整備し、職員への周知徹底を図っている。 一部の職員ではあるが、救急救命の普通講習・上級講習を定期的受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回以上の消防訓練の実施を行い、昼・夜分けての避難訓練を行っている。 新しく入った職員には、消火器の使い方・通報装置の使い方等の指導をしている。	5月避難訓練を利用者と職員で実施、日中の火災を想定して誘導方法や経路確認しつつ、玄関前の駐車場に全員移動することができています。毎年2回の内1回は消防署の立ち合いを求めています。次回予定する11月の状況は読めません。	地域の避難訓練には今まで参加した事がないとのことですので、コロナが落ち着いたら是非参加に向けた動きがあることを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方のこれまでの生き方や、その様に生活して来られたかを知る事により、その人の性格や人格を尊重し、人生の先輩であることを自覚しながら、プライバシーに気を付け接している。 一人で時間を過ごしたい利用者には、自室でゆったりと寛げるよう声かけ 見守りして	日常の、例えば入浴や着替えなどに際して、必ず利用者の選択機会をつくり、本人本位に努めています。また、症状の一つに「繰り返し同じことを言う」ということがある利用者には、職員を替えて対応することで、お互いのストレスを緩和させる工夫もあります。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	散歩・入浴・着替え等、本人のその日の希望や、気分により自身で決めて頂くよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースを尊重し、利用者のペースで生活出来るよう、それぞれの声に耳を傾け支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人個人、身だしなみや服装など好みが違う為、本人の意向に沿って着替えの準備等の支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	定期的に嗜好調査を行い、利用者の希望を献立に取り入れている。 食事の準備や片づけなど、出来る方には無理のない範囲で参加して頂いている。	献立づくり、食材の買い物、調理提供と、職員が一貫しておこなう安心の体制を誇っていますが、もやしのひげとりや食器拭きなど、できる利用者には誘いかけたり、お願いしてやりがいの場をつくっています。またおやつにはホットプレートが活躍しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりのその日の状態に合わせて、食事の形態などを調整し、食事量・水分量がしっかり確保できる様支援している。 毎月の体重測定や定期的な血液検査を行い、医師の指導、指示を受けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科の定期的な受診を受け、適切な指導を受け、個々に応じた口腔ケアの実践に努めている。また、一人ひとりの出来る力に応じた口腔ケアの支援を行っている		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、一人ひとりの排泄パターンに合わせ、トイレ誘導・声掛けを行う事で失敗を減らし、排泄の自立に向けた支援をしている。	排泄チェック表をつけてリズムを把握した声かけが励行され、失敗を減らせています。尿意もあり、独歩でトイレに向かう人でもパットを使用している場合は毎回入らせてもらい、丸まりなどないか確認しています。また便秘対策として毎朝、寒天ゼリーを用意しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分や食事により、自然な排便を心がけると共に、毎日のリハビリ体操・散歩などで、身体を動かし便秘にならないよう気を付けて居る。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の気分・体調により、入る・入らないを利用者自身に決めて頂いている。 入浴が楽しみな方も多く、毎日入れる環境を作っている。	本人の意向の下、1名の利用者が毎日入浴できており、職員が状況を整えています。また、他は週2日くらいですが、こちらも本人に決めてもらっています。個浴の全身浴が常ですが、立位の取れない場合はシャワー浴となっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人ひとりの体調・気分等に応じて、居室・リビング等でいつでも自由に休息して頂いている。 居室の寝具は常に清潔を心掛け、室温にも気をつけ気持ち良く眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容に変化が有った場合は、職員間で変更内容を共有し、利用者の状態に変化が有れば、随時主治医に報告し指示を受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりの得意な事や好きな事を把握し、役割を担って貰ったり、楽しみのある生活を送って頂ける様支援している。歌やゲーム、作品作りなどで気分転換をして頂ける様にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の散歩は行っているが、それ以外の外出支援は控えている。	外出は毎日の散歩のみですが、1月初詣・カラオケ大会、2月節分会、3月ひな祭り、4月花見会、5月BBQ、6月ボーリング大会、7月七夕会、9月敬老会、12月子どもたちとクリスマス会と盛んに行事を執りおこなってきただけあり、来月には「中川喫茶(模擬)」を実施の予定です。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一緒に買い物に出かけることが難しくなっているが、本人と家族の希望により、少額のお金を所持できるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	好きな時にいつでも家族や友人等に電話を掛けられるようにしている。 暑中見舞いや年賀状等を作って出し、家族や友人と交流出来る様にしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やリビングに季節の花を飾ったり、利用者と共に季節の壁飾りを作り季節感を味わえる工夫をしている。 共有空間は余計な物を置かず、清潔・安全を保てる様清掃・点検をし利用者が居心地良く過ごせるよう配慮している。 室内の温度管理は室温計を使い快適に過	掃除はコロナ禍前と変わらないものの、手すりはアルコールで拭くようにしており、換気も以前より増やし、現在は1日3回以上実施しています。生花で季節を届けることを忘れず、また壁には利用者の作品を連ねていますが、足元には余分なものを置かないよう留意しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは、本人のADL、他者との人間関係を考慮し食事時の席を決めている。 リビングに置かれているソファに座り、テレビを見たり、仲の良い利用者同士が話が出来空間を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の居室は好きな物や馴染みの物を置き、思い出の品や写真などを飾ったりし、安心感が有り心地良く過ごせる様にしている。	大半は皆リビングに居て、居室は就寝のためのものとなりがちですが、若年性認知症の利用者は、DVDデッキを持ち込んで映画鑑賞の時間を持っています。また転倒リスクが懸念されベッドの位置を変えた例もあり、利用者の日々変化する症状や状態に対応しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有空間には歩行の妨げになる物を置かず、トイレ・居室等には見やすく解りやすい表示をしている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371001500		
法人名	(有)ネクストサブライ		
事業所名	グループホーム名古屋中川の家 2号館		
所在地	愛知県名古屋市中川区吉津四丁目1303番地		
自己評価作成日	令和2年9月5日	評価結果市町村受理日	令和3年1月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kajgokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;jiyosyoCd=2371001500-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kajgokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;jiyosyoCd=2371001500-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 愛知評価調査室		
所在地	愛知県名古屋市瑞穂区本願寺町2丁目74番地		
訪問調査日	令和2年9月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様一人ひとりの状況に応じた介護・自立支援を、職員・家族・医師等と話し合い、実行するようにしている。  
 毎月行う行事には、家族にお知らせし参加して頂いていたが今年度は、コロナ感染予防の為、家族の参加が出来ない為、写真や手紙などで、報告している。  
 今年度は地域の住民との交流も難しいため、地域の薬局さんには助言頂くなど協力をあおんでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所に3年勤務の後、今3月に管理者となったリーダーを中心に、新たな船出のテープを切っています。前任者が大切にしてきた「家族との信頼関係の継続」を基盤に、電話や写真、手紙を少なくとも月1回は届けることを励行し、家族の話を傾聴することに努めています。また、理念に沿って「1日1回は利用者の笑顔を引き出したい」と考え、介護計画を熟考し、レクリエーションの充実にも力を注いでいます。利用者もこれまでの趣味(編み物、裁縫、読書)や家事(掃除、食器拭き、洗濯物干し)を続け、花の水やりや新聞購読など彩りある暮らし向きが実っています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内に理念を提示してあり、職員会議で唱和し、確認し実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	正月には町内の神社に初詣にでかけ、地域の方々と交流を図った。 例年であれば、地域の高齢者の方々と一緒に食事をする「つくしの会」の給食サービスに参加したり、秋祭り・ふれあい祭りに参加している所であるが、今年度はコロナウイルス感染症の影響で参加できず残念な思いが強い。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や行事への参加を地域に呼びかけているが、今年度は参加を見送らせていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に参加できていない方からも、FAXなどで伺った意見は、職員会議・カンファレンスにおいて話し合い、サービス向上に活かすよう心掛けている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域支援センターには電話やFAX等で、相談し協力を得ている。 区役所を訪問した際には、担当者で面談し、利用者の状況など、報告し協力をあおいでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事務所に「身体拘束ゼロへの手引き」を置き、職員への啓発を行なっている。 身体拘束適正化検討会議を3ヶ月に1回行い、対策を話し合っている。 事業所内の研修で年2回学ぶ機会が作られている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の指導は徹底されており、事業所内での研修で学ぶ機会が作られている。 職員同士でも、注意し合う事が出来るよう指導されている。 虐待の芽や不適切なケアが無いが自己チェックを行い防止に努めている。		

### 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度利用者の後見人との交流は持っている。 内部研修を行い学ぶ機会を作っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に利用者、家族等に契約内容を理解・納得して頂けるよう説明をしている。またリスクについても説明書を用い説明し、理解・納得して頂けるよう図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設に対する苦情や要望などの窓口は施設だけでなく、本部にも設けられており、家族よりの意見・要望を聞き、運営に反映させている。 家族が来設された際には、意見や要望を聞くようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議は本部の地区責任者同席で、毎月行われ、職員が意見を述べる機会を設けている。 議事録は回覧し、全職員に周知を図っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則の変更で給与・福利厚生等条件の整備がされている。職員は変更された内容をいつでも見る事が出来、今後の向上心に繋げる事が出来る。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内における研修は毎月、全職員に対し行われている。 外部研修については、2月以降は参加が難しくなっている。。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	講演会等への参加は難しくなっている為、電話などで、同業者と交流を図っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者に対する傾聴に十分留意するようにしている。利用者様にカンファレンスに参加して頂き、意向を聞き、不安な事・困っている事が有れば解決の糸口を見つけて行く様努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等の要望については、可能な限り受け入れるよう努力しており、利用者の状況についても、詳細に家族に報告している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアプラン作成時だけでなく、本人の状況の変化に伴い、担当者会議で話し合い、家族に報告しプランの変更をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や食器拭き・洗濯物たたみ・裁縫等、利用者の能力に応じて、職員と一緒にしている。 見守りを行いながら、出来る利用者には自室の掃除や自分の洗濯物干しをして頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	今年度は面会に制限があり、自由に面会や外出ができない事もあるが、距離を置いての面会や、電話などで直接話して頂く機会を設けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	制限はあるものの、家族・知人の来訪時には屋外で、距離をとっていただくなどの対応をしながら、短時間でも、希望に応じ会話・交流もされている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎月行う行事等に向け、利用者と一緒に考え、準備や作品作りをしている。 天気の良い日には、一緒に話をしながら、散歩に行ったり日光浴をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所される利用者の受け入れ施設の確保や情報提供を行なっている。 家族の許可を得て面会に伺ったり、家族から退所者の状況について電話を頂いたりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者本人に意向を聞き、希望を取り入れる様にしている。 利用者の行動の変化等を観察し、状況を介護記録に記し、ケアプランに反映させている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族関係や生活歴・病歴等については、入居情報として記録し、日々の会話の中からもくみ取りケアプランに反映させている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の日々の出来事や言動等を介護記録に個別に記録し、職員間の情報の共有、ケアプランの見直しに活用している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の担当者会議で話し合い、本人の状況について、家族や協力医等と意見交換や指導を頂き、ケアプランを作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日々の出来事や言動等を介護記録に個別に記録し、職員間の情報の共有、ケアプランの見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問理美容など、他サービス事業所とも連携し、本人のニーズに合ったサービス提供をおこなっている。		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の高齢者の方々と一緒に食事をする「つくしの会」の給食サービスに1月まで参加していた。 2月以降は地域の行事にも参加が難しくなっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に訪問医、訪問歯科の受診を受けている。 協力歯科医に行き定期健診などを受けている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は週1回、利用者の健康管理をしている。 利用者に急変などが有った時は相談し、アドバイスを受けている。 訪問医・訪問歯科医から、介護として可能な支援の指導を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には職員が付き添い、情報提供をしている。 入院中は、定期的に病院を訪れ退院についての情報交換をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	カンファレンス等において、利用者の状況を協議し、必要に応じて医療機関や特養・老健との連携を図っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応マニュアルを整備し、職員への周知徹底を図っている。 一部の職員ではあるが、救急救命の普通講習・上級講習を定期的受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回以上の消防訓練の実施を行い、昼・夜分けての避難訓練を行っている。 新しく入った職員には、消火器の使い方・通報装置の使い方の指導をしている。		

### 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方のこれまでの生き方や、その様に生活して来られたかを知る事により、その人の性格や人格を尊重し、人生の先輩であることを自覚しながら、プライバシーに気を付け接している。 一人での時間を過ごしたい利用者には、自室でゆったりと寛げるよう声かけ、見守りして		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	散歩・入浴・着替え等、本人のその日の希望や、気分により自身で決めて頂くよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースを尊重し、利用者のペースで生活出来るよう、それぞれの声に耳を傾け支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人個人、身だしなみや服装など好みが違う為、本人の意向に沿って着替えの準備等の支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	定期的に嗜好調査を行い、利用者の希望を献立に取り入れている。 食事の準備や片づけなど、出来る方には無理のない範囲で参加して頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりのその日の状態に合わせて、食事の形態などを調整し、食事量・水分量がしつかり確保できる様支援している。 毎月の体重測定や定期的な血液検査を行い、医師の指導、指示を受けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科の定期的な受診を受け、適切な指導を受け、個々に応じた口腔ケアの実践に努めている。また、一人ひとりの出来る力に応じた口腔ケアの支援を行っている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、一人ひとりの排泄パターンに合わせ、トイレ誘導・声掛けを行う事で失敗を減らし、排泄の自立に向けた支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分や食事により、自然な排便を心がけると共に、毎日のリハビリ体操・散歩などで、身体を動かし便秘にならないよう気を付けて居る。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の気分・体調により、入る・入らないを利用者自身に決めて頂いている。 入浴が楽しみな方も多く、毎日入れる環境を作っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人ひとりの体調・気分等に応じて、居室・リビング等でいつでも自由に休息して頂いている。 居室の寝具は常に清潔を心掛け、室温にも気をつけ気持ち良く眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容に変化があった場合は、職員間で変更内容を共有し、利用者の状態に変化があれば、随時主治医に報告し指示を受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりの得意な事や好きな事を把握し、役割を担って貰ったり、楽しみのある生活を送って頂ける様支援している。歌やゲーム、作品作りなどで気分転換をして頂ける様にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の散歩は行っているが、それ以外の外出支援は控えている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一緒に買い物に出かけることが難しくなっているが、本人と家族の希望により、少額のお金を所持できるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	好きな時にいつでも家族や友人等に電話を掛けられるようにしている。 暑中見舞いや年賀状等を作って出し、家族や友人と交流出来る様にしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やリビングに季節の花を飾ったり、利用者と共に季節の壁飾りを作り季節感を味わえる工夫をしている。 共有空間は余計な物を置かず、清潔・安全を保てる様清掃・点検をし利用者が居心地良く過ごせるよう配慮している。 室内の温度管理は室温計を使い快適に過		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは、本人のADL、他者との人間関係を考慮し食事時の席を決めている。 リビングに置かれているソファに座り、テレビを見たり、仲の良い利用者同士が話出来る空間を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の居室は好きな物や馴染みの物を置き、思い出の品や写真などを飾ったり、安心感が有り心地良く過ごせる様にしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有空間には歩行の妨げになる物を置かず、トイレ・居室等には見やすく解りやすい表示をしている。		